

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年5月31日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2870101413		
法人名	福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム御影		
所在地	兵庫県神戸市東灘区御影石町1-2-18 (電話)078-822-5620		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-2号		
訪問調査日	平成19年4月12日	評価確定日	平成19年6月7日

【情報提供票より】 19年3月31日事業所託

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年5月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤17人, 非常勤8人, 常勤換算22.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨コンクリート 造り 4階建ての 2~4階部分		
------	-------------------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,900円	その他の経費(月額)	49,200円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	140円	昼食 320円
	夕食		おやつ 170円
	または1日当たり		950円

### (4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	27名	男性	1名	女性	26名
要介護1	4	要介護2	10		
要介護3	9	要介護4	2		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	65歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人甲南病院・梅村歯科医院
---------	-----------------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域との結びつき、家族との絆を大切にしながら、その人らしい生活を支えていく」という姿勢を職員の一人ひとりが持ち、入居者や家族の安心と満足に向けて努力しているグループホームである。事業所は運営推進会議の開催に積極的に取り組み、入居者・家族に可能な限り会議へ参加してもらえるよう支援し、地域関係者との意見交換や交流の場を持つ事で地域との連携が深まり、ケアサービスの質の向上へと繋げている。医療連携体制を整え「重度化した場合における対応の指針」を策定し、入居者の日常での健康管理や、重度化に伴う医療ニーズに的確に対応できるよう取り組んでいる。看護師の24時間オンコール体制や医療機関との連携の強化、更に職員全体での研修会を継続し教育体制を整えていく事にも努めている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 評価結果は全職員で確認し、月々の課題設定時に参考にしている。前回、地域との交流や働きかけが少ない状況であったが、運営推進会議等を通じて繋がりが拡大している。マニュアル関係の整備も十分整っていない状況であったが、整備され日常業務に活かしている。職員は、入居者本位で一人ひとりの意向や希望を大切にしたいケアを目指し支援しているが、今後はケアプランとしての文書化が確実に実施できる事が望まれる。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価は昨年の自己評価への関わりと同様全職員で取り組んでいる。職員一人ひとりが評価の意義やねらいについて理解し、評価項目の1項目毎を個々に点検していき、振り返りや見直しの機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4,5,6) 事業所の現状や評価の報告と共に、家族が要望や意見を出しやすいよう配慮し、活発な意見交換の場となっている。事業所の医療連携体制の取組について話し合い、重度化に対する事業所としての今後の姿勢や対応への参考にしている。入居者や家族が会議へ参加しやすいよう支援すると共に、今後の会議を充実させる為にアンケートを実施し、参加者の意向を取り入れるよう努めている。市町との定期的な交流はないが、運営推進会議等について情報を提供し、市町の考えを聞き検討し合うなど交流の機会を作る事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 職員は家族の来訪時に入居者の状態を伝えと共に電話・電子メール・ファックス等で連絡を取り合っている。また毎月の入居者の様子を日記形式で詳しく伝えている。苦情や相談への対応については重要事項説明書に事業所の相談窓口・国保連合の窓口・市区の窓口を明記し入居時に説明している。建物1階玄関に親しみやすく家庭的な意見箱を設置し、家族等が気軽に活用できるように配慮している。意見や苦情を受けた場合は、苦情受付カードに記録し職員全体で情報共有し、系統立てて速やかに対応・改善につなげるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 入居者は日常の散歩や外出等に近隣の人と挨拶や言葉を交わし、小学校・婦人会の協力のもとに地域の盆踊り等を楽しむ機会がある。月1回実施されている「かがやきサロン」に入居者・職員が共に参加し交流が継続している。今まで不定期だったボランティアの導入について、民生委員・婦人会・ボランティアセンターとの連携にて導入の定期的な継続を検討している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人が人間としての尊厳を持って、家庭や地域の中でその人らしい自立した生活が送れるように支える」の理念に沿って、職員全体の行動指針として「マインド」を掲げて理念の浸透を図っている。		地域密着型サービスの役割を担うグループホームとして、理念に沿った行動指針の「マインド」を事業所独自に文章化していく検討を行っている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念やマインドが書かれた携帯カードを常時持ち、会議や個別面談等で話し合い、自然な形で浸透が図られ日々のケアに活かしている。各ユニット毎に理念・方針に沿って年間での課題や月の課題を設定し、PDCAサイクルに基づいて実践と見直しを繰り返し職員一人ひとりが理念の具体化に向けて努力を重ねている。		日々の入居者・家族との関わりの中で活かされている具体化された理念を、今後も継続的に振り返りの機会を持ちサービスの質向上に向けた取り組みが期待される。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常での散歩や外出等で近隣の人との挨拶や言葉を交わす機会がある。小学校・婦人会の協力のもとに地域の盆踊りに参加している。月1回実施されている「かがやきサロン」に入居者・職員が共に参加し交流が継続している。		民生委員や婦人会の協力のもとに、今まで不定期だったボランティアの導入について、ボランティアセンターとの連携により継続できるよう検討を始めた。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については職員一人ひとりが1項目毎を個々に点検し、振り返りや見直しの機会になっている。前年度の第三者評価は全職員で結果を確認し、見直すべき所は改善策を検討し、評価内容によっては職員の誇りや励みに繋がる部分があった。</p>		<p>今後も運営推進会議等で自己評価・第三者評価の結果を公表し、評価への取り組みについて話し合い、事業所の質の向上に活かしていくことを期待する。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者・家族・自治会・民生委員・地域包括支援センター・大学関係者・事業所代表者・職員の参加のもと運営推進会議は現在までに4回実施していて、入居者・家族に可能な限り参加してもらえよう支援している。今までの会議は、事業所の現状や評価の報告と共に、家族が要望や意見を出しやすいよう配慮され、活発な意見交換も見られた。現在は医療連携体制について話し合い、重度化に対する事業所としての今後の姿勢や対応への参考にしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在は市町との定期的な交流はないが、入居者の住民票の手続き等で当該市町の担当者との連携は取れている。運営推進会議の内容は地域包括支援センターを通して市に報告している。</p>		<p>運営推進会議等について情報を提供し、市町の考えを聞き協議し合う機会を設定していくなどの取り組みが期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員は家族の来訪時入居者の状態を伝えるよう心掛けており、また電話・電子メール・ファックス等で連絡を取り合う取り組みもある。金銭の出納状況は定期的に家族に報告すると共に、毎月の入居者の様子を日々の状況に沿って日記形式で詳しく伝えている。</p>		<p>家族の知りたい点・望む報告方法を今後も検討し、個々の家族の状況に合わせた丁寧な報告を期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に事業所の相談窓口・国保連合の窓口・市区の窓口を明記し、入居時に説明している。建物1階玄関に親しみやすく家庭的な工夫のある意見箱を設置し、家族等が気軽に活用できるよう配慮している。意見や苦情を受けた場合は、苦情受付カードに記録し、職員全体で情報共有し、系統立てて速やかに対応が出来るよう取り組んでいる。</p>		<p>家族は面会時・相談窓口・運営推進会議等で意見や要望を出せる機会があるが、今後は家族会の設立も状況やタイミングを見て検討することが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設当時は職員の異動が多く、家族への職員の異動報告も時期によっては不十分で、家族等に不安を与える時があった。現在は安定してきているが、異動の際は引継ぎを丁寧に行い、日常的に職員は担当ユニットだけでなく、全ユニットの利用者の状況を把握し信頼関係が保てるよう努めている。入居者の支援の必要性に応じて、管理者・主任等がフリー勤務者として柔軟に対応できるよう体制を整えている。</p>		<p>職員の異動については入居者・家族の不安を少なくする為に、家族への説明や入居者への対応等を検討し、その都度周囲に与える影響に配慮する事が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれの職員の経験や力量に応じて研修計画を策定し、外部研修については積極的に情報提供し、研修費等の支援を可能な限り行っている。研修後は報告書を作成し、研修報告会を開催し情報共有に努めている。入職者等についてはOJTとして日々の勤務内で指導助言する機会を持っている。</p>		<p>OJTについては法人内での協力の下に、職員のステップアップに向けてのフォローが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区内のグループホーム連絡会が発足し、二ヶ月に1回の予定で開催され参加している。現在は管理者の参加により交流を深めている。</p>		<p>今後は、職員同士が交流できるようにしていく予定で、事業所間での見学会・職員交流にも取り組んでいく計画がある。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時の面接にて利用者・家族の意向を十分に把握するよう取り組んでいる。出来る限り利用前の見学を勧めており、外泊の経験がない人に対してはショートステイ利用について伝えている。入居後も利用者・家族の考えや方針によって柔軟に対応していく事を説明している。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の力量や関心に沿って、調理・洗濯・掃除等事業所内での役割への取り組みを支援している。日々の生活で入居者と接する時、一緒に喜び合い互いに支えあう関係を大切にしている。</p>		<p>入居者が日常において気持ちの張りや潤いを感じられるよう習字・料理・ダンス・園芸・歌・手芸等アクティビティーの充実を図り、職員は必要時に支援していき、人として共に学び合えるような場面作りを期待する。</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の面接で利用者・家族の意向を十分に把握すると共に、「暮らしの情報シート」からの情報を大切にしている。入居後も本人との会話の中で希望や思いを把握し、意思疎通が困難な人へは非言語コミュニケーションを大切に、日々の様子や表情から意向を汲み取り支援している。</p>		<p>入居者間で自治会を組織化することにより、入居者間のコミュニケーションの場や希望の表出の場となるよう実現に向けて検討を重ねている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族より情報提供された内容をもとにアセスメントし、ケアプランの作成に取り組んでいるが、ケアプランとしての文書化と本人・家族への交付においてばらつきが見られる。		ケアカンファレンス・ケアプラン作成について年間計画を立て、入居者一人ひとりのケアプランを作成し、家族への交付が確実にできるよう早急な対応が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は三ヶ月に1回の見直しを実施し、状況変化がある場合はその都度見直すよう取り組んでいるが、見直し後のケアプランの文書化において不十分な状況が見られる。		定期的な見直し時や状態変化時にケアプランを変更した場合は、確実に文書化し交付する事が望まれる。 担当職員が月1回のモニタリングを実施する事を検討している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のデイサービスのレクリエーションに、不定期ではあるが入居者の意向に沿って自然な形で参加している。入居者のADLの状況に応じてデイサービスでの機械浴利用の対応ができています。土日はデイサービスセンターが休みのため、会議の開催場所として活用している。医療連携体制を整え、日常での健康面への細やかな配慮と共に、重度化した場合でも入居者・家族の要望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望を取り入れ、かかりつけ医の定期的な往診又は通院への支援があり、受診内容については事業所看護師等も把握し情報共有している。定期的な往診が二週間に1回ある。併設施設の看護師2名が事業所との兼務にて、24時間体制で相談等に応じている。		今後も入居者の状態変化に応じて、かかりつけ医・事業所・家族等がお互いに連携を密にし、急変時などに統一した対応できるような体制作りを検討していく事が望ましい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての医療連携体制が整い「重度化した場合における対応の指針」を策定し、家族等への説明と同意を得ている。		重度化や終末期の対応について、職員全体での研修会を継続する等教育体制を整え情報の共有ができるよう取り組んでいく事が望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書・重要事項説明書・運営規定に明記し入居時に利用者・家族に説明し同意を得ている。職員は利用者一人ひとりの尊厳を重視し個性を大切に、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。ケースファイル等記録書類は鍵の出来る場所に保管し、日常的に記録書類の扱い等の秘密保持に配慮している。		今後更に、個人情報保護法の理解を深める事等プライバシー保護について研修の機会を持つ事が期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴・趣味・関心事を把握し入居者の希望に沿うよう努めている。個々のペースを重視した1日が過ごせる為の配慮があるが、外出支援等において入居者の意向に沿うのが困難な状況の時もある。		入居者のペースにあわせた暮らしの支援ができるよう、職員の勤務体制の調整や地域のボランティア等の協力を得る試みも期待する。



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設からの厨房食を利用しているが、週2回は昼食の献立を入居者と共に考え買物・調理を職員と一緒にしている。後片付け・食器洗い等は自分の役割として捉え自然に行っている入居者も見られる。		グループホームの特性である共に暮らすという点に配慮し、食事が入居者にとって今後も楽しみな時間である為にも、外食等取り入れ、また職員も一緒に同じ食事を食べる機会を持つ工夫も期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に沿えるよう回数や時間帯に配慮し、夜間入浴希望の人への対応も可能である。入浴拒否の人は足浴・手浴等試みている。プライバシーに配慮した一人ひとり個別の入浴を実施し、さりげない見守りを心掛けている。入居者の身体状況に合わせて、デイサービスでの機械浴の利用が可能である。		今後も入居者の意向や身体状況に沿った入浴が出来るよう、職員の勤務体制やローテーションの工夫、併設施設の協力が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	力を発揮してもらおう場面として配膳・洗濯・掃除等の家事を行ってもらったり、楽しみを見出し生活に張りを感じてもらおう為に、不定期ではあるが折り紙・塗り絵・習字・ピアノの練習・カレンダー作り等アクティビティーを充実させるよう取り組んでいる。		本人の気持ちや力を尊重した楽しみごとへの取り組みを定期的・継続的に実施する為に、ボランティアの協力を得て、クラブ活動やサークル活動として関わりが増していけるよう検討している。
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の稲荷神社へ散歩に行くことが日課の入居者の方が数人おり支援している。食材等の購入の為に定期的な買物は職員と共に継続している。季節ごとの行事としての外出も実施しているが、入居者の希望と職員の人員状況のタイミングが合わず、入居者個々に合わせた散歩や外出が出来ないことがある。		年間の行事予定を作成し、1ヶ月に1回は定期的な外出を実施していくよう検討している。日常的にも地域のボランティアの協力や職員の勤務体制の工夫により、入居者の希望に沿った外出や散歩が継続出来る事が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターや出入り口の施錠は行われていない。入居者が不穏な状態であったり徘徊等ある場合は家族や地域の交番等の協力を得る体制がある。利用者の身体状況によっては家族の同意のもとに一時的に拘束する場合があったが、現在止むを得ず継続的に身体拘束が行われてる事例はない。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と共に年2回防災訓練を実施している。心肺蘇生法の訓練も行い、日常的に防災について相談する等消防署との連携が取れている。緊急時対応マニュアル、事故防止マニュアルを整備し職員へ配布し各ユニットに設置している。		地震・津波などに対する訓練を消防署と検討している。今後も救急法を含む災害訓練の定期的な実施が望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスに配慮した食事が提供され、生活パターンシートに食事摂取量・水分摂取量を記録し、排泄状況との関連にも配慮したケアを実施している。月1回の体重測定を実施し、食欲や身体状況に応じて医師や看護師に相談するよう取り組んでいる。		毎食後の口腔ケアの重要性を職員が再確認し、今後も継続して支援できる事が期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり</p>					
		居心地のよい共用空間づくり	玄関及び共有空間は季節の彩りのある花や観葉植物・装飾品を設置し、季節感や生活感を活かした空間作りを常に検討する取り組みがある。木のぬくもりを感じさせる家具や衝立・椅子が、利用者一人ひとりの気持ちの変化に対応できる位置に工夫し設置してある。エアコン調整や換気を適宜実施し、加湿器の設置、温湿度計によるチェックにて温度・湿度の管理を行っている。		
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
		居心地よく過ごせる居室の配慮	居室によっては仏壇・タンス・テーブル・衣装ケース等馴染の物や思い出の品を持ち込んでいる部屋があるが、シンプルな部屋もある。入居者一人ひとりの居室環境に関しては、本人の落ち着ける場を重視し、本人や家族の意向・希望に配慮した対応を行っている。居室にトイレ・洗面台がありプライバシーに配慮したケアが行われている。居室ドアは家族の協力にてそれぞれの好みの目印をつけ、混乱を防ぐよう配慮している。		
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている			

 は、重点項目。